

【富山県経済・文化長期ビジョン懇話会 青年部会 合同分科会（概要）】

- 日時：平成 27 年 12 月 22 日（火）13:15～17:50 富山県民会館 611 号室
- 参加者：青年部会委員 及び 県庁若手タスクフォースメンバー
- 目的：富山の未来を本気で考えるため、まずは富山の抱える不安要素・課題から考える
- 概要：ワールド・カフェ及びグラフィック・ファシリテーションの手法を活用し、具体的な危機感を共有するため、身近な心配事・その原因・ここまま何もしないと将来どうなるか、議論

1 合同分科会の成果

- ・人口減少・少子高齢化、東京一極集中、国際競争の激化をはじめとしたグローバル化が進展する中、富山県の将来は決して安泰ではなく、今から将来を見据えて取り組まないといけない との危機感を共有できた。
- ・生活圏や職業、性別が異なる者同士での活発な意見交換により、発想の幅が広がった。

2 合同分科会での主な意見

＜不安要素・課題として挙げられた意見＞

- ・産業の競争激化や労働力不足→中小企業にとっては特に厳しい状況となるおそれ
- ・労働力不足が深刻化→高齢者や女性、外国人の活用の検討や生産性向上の取り組み
- ・新幹線開業効果の継続、急増している外国人観光客の取り込み（観光面）
- ・文系女子向けの大学や就職先の少なさ、若者の希望する就業先と実際 mismatch
- ・高齢化の進展や、定住希望者の取り込みのための公共交通の充実
- ・街中に楽しむ場所がない→シャッター街の再生や芸術文化のソフト面の充実
- ・女性の共働きが多いことから子育てと仕事の両立支援などの女性の働く環境の充実
- ・持ち家率が高いこともあり、空き家の増加が懸念 など

＜今後の方向性として挙げられた意見など＞

- ・技術革新などの職業構造の変化を予測し、教育のあり方や国内外からの人材流入の方策について検討する必要がある
- ・ものづくり企業が多いという特性に合わせ、理系学生の育成(特に女性)を小・中学校から力を入れて実施していく必要がある
- ・芸術文化のソフトの充実が重要、小さい頃から質の高い文化に触れる仕組み・体制づくりや、県民全体の文化レベルを向上させる必要がある
- ・文化のうち、祭と工芸には、その土地の風土と暮らしている人の心が反映されており、それを大切にすることが、富山らしさ、富山にしかない価値を守ることになる
- ・自分たちが 30 年後シニア世代になった時に活躍できるような環境づくりが必要
- ・人口減少を左右する、結婚・出産・職業・居住地の選択はあくまで個人の自由意志によるため、価値観を形成する幼少期からの教育が重要（郷土愛、家族形成など）
- ・「ないものねだりではなく、あるものを活用」という視点で課題の解決策を考えていく上で家（もしくは空き家）は、富山県にとっては重要な視点